

慶南科學技術大學校での留学を終えて

2019 年度長期交換留学
韓国、慶南科學技術大學校
文化学部 文化学科
173107 別役来望

私は 2019 年 8 月から 2020 年の 3 月の約半年間、韓国の慶南科學技術大學校へ最初の交換留学生として留学してきました。当初 1 年間の予定で留学に行きましたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で 3 月に帰国せざる終えない状況となり帰国しどのように留学を終えたのかを記していきたいです。

1. 韓国留学前準備について

韓国留学が決定したときの私は簡単なハングルが読める程度の韓国語能力でした。そのため韓国大学側に 1 年間の計画書を韓国語で提出しなければならなかったときすべて翻訳機を使い間違っているのかも分からない状態で提出しました。案の定留学先から私の韓国語レベルの心配だという連絡を受けました。そこから留学までの 3 か月間少しでも韓国語の能力を伸ばすために韓国からの留学生の協力のもと韓国語の習得に身をそぎました。以前海外旅行中に知り合った韓国人が偶然にも韓国語教師資格を持っていたためその方にも SNS を使い韓国語を教えてもらいました。おかげで少しだけではありますが以前より韓国語が理解できるようになりました。

2. 韓国での生活

授業開始の 2 日前に韓国に入り大学のある晋州市まで韓国大学側がバスチケットを取ってくださったので釜山の空港から共に交換留学した先輩と二人だけで出発しました。到着先では受け入れ先の先生が出迎えてくださりそのまま寮に向かいました。ここで初めて自分の韓国語能力の低さを実感しました。読むことはできても聞くことが全くできず説明して下さっていることすべてが理解できなかったのです。自己紹介することも一気に自信を無くしできなくなってしまいました。初日の不安と言うものは今でも鮮明に思い出せます。そこから、夏に短期で留学していた韓国人学生とまだ交流があったため時間を見つけては私たちのため晋州市内を案内してくださいました。市には日本と深く関係する城がありそこを中心に市場やモールがありました。バスの乗り方や町での買い物の仕方など慣れるまでチューターの方や友達がついてきてくださりおかげで町の雰囲気にはすぐに馴染むことができました。

学生寮は学校のすぐ傍にありました。部屋は 1 つの大きい部屋に 3 つの部屋があり一部屋を二人で共有する形でした。一学期間は大きい部屋に入るときに暗証番号の入力が必要で各部屋は鍵管理でしたが次寮に戻った時は各部屋も番号入力に変わっていました。鍵をなくす生徒が多いため変えたそうです。隣の部屋は階長であったためとても親切にして下さり簡単な韓国語を使ったり翻訳機を使用したりし意思疎通を行って

いました。長期休暇中に使用する寮は2人部屋で2人だけでトイレやシャワーを使用する形でした。寮において残念なことは冷蔵庫と台所がないところで冬はベランダで食べ物を保管できましたが毎回お弁当かレトルトという体に決まるとはいえない食生活で、ご飯を食べることが嫌になった時期もありました。そして食費代が毎月かなりかかりました。一時帰国したさいにレンジで作れる卵焼きセットなど日本の便利グッズをたくさん持っていき食に困らないように工夫しました。学校の近くには安い食堂がたくさんあったので週の半分は外食をしていました。経済学部の教授や友達のご両親も私の食生活を気にしてくださり時々ごはんに誘ってくださりました。いつも一人でご飯を食べることが多かったので大勢で囲んでご飯を食べるのはとても楽しく、良い時間を過ごしました。

3. 韓国での授業

はじめ授業選択で中小企業についての講義など応用的授業を選択していましたが、韓国語能力が低いため担当の先生に諦めるよう言われ悔しい思いをしました。経済学部の先生が尽力してくださり同級生で少し日本語が分かるという生徒を紹介してくださいました。その学生と常に一緒に授業を受け最初は教授が話したことすべてを翻訳してもらっていました。それでも専門の経済となると日本語でも理解しがたい問題ばかり直面しとても苦労しました。ですが経済学部の先生方は最後まで親切に相手してくださり私でも理解できるように分かりやすいサイトを教えてくださったり特別にプリントを用意してくださったりと大変お世話になりました。

韓国大学で受けた授業で1番良かったのは、「韓国史の理解」です。この授業を通し韓国人がどのように歴史について向き合っているのか知ることができました。日本人が韓国人に犯した罪と目を向けなければいけない時もあり少し肩身の狭い思いもしましたが、韓国人の日本に対する思いを知ることができ自分の歴史感にも変化があったと感じます。どちらが誤った歴史教育をしているとかではなくお互いの歴史的背景をしっかりと把握していないとなぜ両国で歴史教育に違いがあるのかを知ることができないと韓国で生の歴史教育を受けて実感しました。また、私たちの日本教育ではあまりにも韓国との関係を簡易的に教えすぎだと感じました。これでは相手国のことを理解することは不可能であり現在の両国の関係を若者が良くしていくうえで政治的なことに直面するとやはり難しいのではないかと感じました。過去歴史的に日本と韓国の間で何があったのか韓国の政治がどのように動いてきたのかを知るのは相手を知るのにとっても大事なことで、ただ知っているのと意味をしっかりと理解することの違いを感じました。もっと深い話をしたいとも感じていたころ歴史学を担当していた教授と経済学部の友達が「図書討論会」という部活を作っていたのでその部活に加入しました。この部活では一冊の本を読みそれについて意見交換を行うことでした。内容は様々で日帝時代のことについてや女性の格差社会についてなど韓国の政治の在り方など今を生きる学生の素直な意見を聞くことができ学ぶことを感じることはとても多かったです。

後期からは日本語でも出ている本でより私も理解できるようにして下さる予定だったのですが帰国となり韓国も部活ができない状態で集まることができなくなってしまいかなり悔いが残った状態で終わる形となりました。

4. 休み期間の過ごし方

私は長期休暇中3週間ほど帰国したのちにすぐ韓国に戻りました。韓国一周旅行をする目的があったからです。まず韓国の行き先決めとして韓国史にまつわるところを回ろうと思い1人でホテルからバスまですべて予約し観光をしました。道中のバスはとてローカルなバスもあり客人の家の前にバスを停めて降ろすといった日本でもあまり見なくなった光景を見かけ少し感動しました。この旅行中はゲストハウスに泊まることを心がけたくさんの方々と交流を広げることになりました。しかし世界はコロナウイルスの影響が少しずつできておりゲストハウスはどこも閑散状態でした。それでもスタッフの方が気さくに話しかけてくださり休暇中にあまり人と話す機会がなくなっていた私にとってはとても良い時間でした。あるゲストハウスでは日本人の同い年の女子大生に会いました。彼女は世界一周をしてもう帰るところでした。意気投合し私が住んでいる地域でも会う約束をしました。その出会いがあったゲストハウスでは最終日ということもあり旅の疲れと韓国の生活の疲れがでたのかゲストやスタッフの前で涙を流しながら話をしてしまいました。韓国と日本の関係が悪いことがすごく嫌だという話からお互いの意見を交換し、生活が少ししんどいことを伝えると私を抱きしめながら慰めてくださりある方は手をさすりながら「自分の娘より幼い子が違う国で苦勞をしていると知ると僕も胸が痛い」と一緒に涙を流してくれました。この時の感動と感情はうまく言葉に表現できないです。ただあの場にいた皆さんに心からの感謝を述べたいです。

5. オンライン授業

韓国では日本よりも少し早く新型コロナウイルスが流行しました。旅行中もゲストハウスのスタッフの方に人が多い明洞には感染リスクがあるため行くなと言われてました。報道では韓国でずっと過ごしている中国人もタクシー乗車拒否などの差別をされたと聞きました。

3月初めに前期が始まる予定でしたか2週間ずれて大学が始まることになりました。そのため入寮期間もずれ11階建ての大きな寮に1人で過ごすことになりました。そうこうしていると韓国の入国危険レベルが2にあがり県立大学側から連絡が入り急遽帰国することになりました。お昼に連絡が入り次の日の朝には帰国しました。その時点では大学の授業がどのようになるか分かっていませんでしたが、しばらくして大学授業がすべてオンライン授業になったと連絡が来ました。

ここで少し感染者が多い国から帰宅した時の状況を説明します。まず韓国の空港では、入る際にスタッフによる体温チェックがあります。荷物を預ける際に体調確認をされ預け荷物のなかにマスクが入っていないか確認されました。この時韓国ではマスク

の輸出が制限されていました。マスクを回収されているゲストもいました。空港利用者には全身完全防備の人も少なくなく韓国のコロナウイルスの状況が思った以上にひどいのだと感じました。日本に帰国後は空港の入国審査で普段そのまま通過する地点に長い列ができており質問書に嘘偽りなく書くよう指示されどこにどのくらいの期間いたのかなどの質問に答える必要性がありました。韓国の中でも感染者が多かった大邱地域にいたわけではなかったので質問書を記入後同じような口答質問を受け終わりました。正直この時思ったことはあまり簡単なチェックだけだったのでこれでいいのかとすごく疑問に感じました。3月初めに帰国しましたがこの当時、日本はそれほどまでに感染者がいなかったためかマスクを着けている人も少なくどの建物も体温チェックなしに入れることに不信感すら抱きました。日本より韓国の方が安全だったのではとも感じました。案の定と言っていいのか感染者が一気に増加し日本の対応の悪さ、危機感の薄さを身をもって感じました。

オンライン授業は正直に言いますが私はほとんど聞いていません。韓国の授業をその場で聞くのにも精いっぱいだった私はオンラインの録画授業のスピードについていきませんでした。オンライン授業は学校の公式サイトから入りユーチューブで限定公開されていました。授業を飛ばさずに聞いたか聞いてないかは目録に達成度がパーセントで表示されるしくみでした。テストはテスト時間内に出された問題に答え指定の場所に提出する形でした。韓国の友達曰く、普段のテストよりも少し難しかったとのことでした。オンライン授業の感想を聞いたところ録画式だったこともあるためか質問もできず一方的に教授が話しているだけでありディスカッションもいつも以上にやりづらかったと言っていました。

6. まとめ

韓国に飛び立った時期は韓国と日本の政治的関係がとても悪くなっていた時であったため不安でした。日本人をどのように思うのか気にしないようにしても気になってしまいました。外では日本人とばれないようにふるまったときもありました。お店の日本人の立ち入り禁止を見たことやタクシーに乗った時に永遠に日本の悪口を言われたこともありました。それを見てただただ怖いと感じていましたが友達が「日本を本当に嫌っている人は少ないが、日本食や日本をテーマとしているお店は日本人お断りと書かないとお客さんが減ってしまう可能性があるから不本意だけど書いていることもある」と教えてくださり少しではありますが心が軽くなりました。上文でもわかりますように私は日韓の関係が悪いのは嘘なのではないかと感じるほどに周りの人たちは親切にしてくださいました。食事中日本語で話していたら留学頑張っねと食堂のおばちゃんがサービスをしてくれたことも何度もありました。買い物に行ったらキムチを買うか迷っていたら隣にいたおばさんがこのキムチは高いから私の家のキムチを上げるとキムチを下さったこともありました。この女性にはこのあとも気にかけてもらいちょっとした食べ物をたくさんいただきました。緊急帰国したために連絡ができず帰っ

てきたこととても気がかりに思います。このように多くの親切心を受け取り私は強く日韓の関係がよりよくなるまいかと感じるようになっていきました。親切にしてくださった方の中で両国の関係について話すことも多くありました。彼らが口を揃えて言っていたのは「安部の政治政策は気に入らないが日本人を嫌う理由にはならない」でした。日本の政治政策について韓国の学生の方が日本の学生よりも詳しいのではないと思うほどよく知っていました。ただその情報が正しいのか間違った認識をしているのかなどの指摘を自分の持っている知識量と韓国語では説明できずとてももどかしい思いをしました。そのたびにもっと勉強をしようと自分のモチベーションにしていきました。

今回の留学では家族や留学先の先生、ともに留学していた竹村さんと友達など多くの方に支えられたことで半年間無事に過ごすことができました。自分の長所の再確認や短所も見つけることができ半年間と言う短い期間にはなりましたが有意義な半年間を送れることはできました。ただやはり自分の目標としてきた理想の自分像とはかなり劣った状態で終わってしまったことなど悔いの残る形で終了してしまったのでどこかでまた挑戦ができたならなと考えています。韓国でできた縁を切ることなく広げられるようにこれからも韓国語だけでなく政治や歴史の勉強をしっかりとしていきたいです。留学に携わって下さったすべての方に感謝の意を述べ結びにしたいと思います。心からありがとうございました。

